

## 中央・新旭川まちづくり推進協議会 会議録 令和7年度3回

会議概要	
日時	令和8年3月4日(水曜日) 午後6時30分から午後19時50分まで
場所	旭川市役所 7階 大会議室 A
出席者	委員 (14名、正副会長以外は50音順) 山田会長、伊藤委員、今井委員、大西委員、菊地委員、工藤委員、佐藤(信)委員、 佐藤(朋)委員、素野委員、高木委員、十川委員、長谷川委員、福原委員、山岡委員 (欠席者 中村副会長、上野委員、大久保委員、久住呂委員、佐藤(日)委員、 蔦川委員) オブザーバー 旭川市立大学 経済学部 黒川教授 旭川市地域まるごと支援員 佐藤支援員 事務局等 地域活動推進課 阿部主査 中央公民館 住吉館長 新旭川公民館 土橋館長
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1 中央・新旭川地域の補助事業 令和7年度の進捗状況
	資料2 中央・新旭川まちづくり推進プログラム

(補足)「中央・新旭川まちづくり推進協議会」を以下「協議会」という。

### 議事の内容

#### 1 開会

冒頭に、市の担当者から、市政情報の説明があった。

出席委員の確認、オブザーバー出席者の紹介を行った。

## 2 中央・新旭川地域のまちづくりの検討と推進について

### (1) 補助事業の進捗状況報告

今年度、活動を実施している2事業について、資料2のとおり進捗状況を確認した。

#### ア 知新っ子見守り事業

実施団体の知新っ子を見守る会に参画する大西委員から、進捗状況について報告があった。主な内容は次のとおり。

- ・「冬を楽しむ会」というイベントを毎年開催している。知新小学校と地域住民が協力し、知新小学校の敷地内でミニ雪像の制作や、旭川市立大学の黒川ゼミの企画によるレクリエーションを年に1回開催している。
- ・今年度は2月16日に開催する予定だったが、インフルエンザで学級閉鎖となったため中止した。最近では2月中旬でも雪像作りができないぐらい気温が上がるため、延期ではなく中止とした。
- ・中止を決定したのは開催の数日前であり、それより前にイベント保険の加入手続きを済ませていたため、まち協の補助金から保険料を支払っている。
- ・毎年「知新っ子による交通安全標語コンクール」も開催している。児童が考えた標語の中から、最優秀賞に選ばれた3つの標語と、考えた児童の氏名を掲載したポケットティッシュを、3月25日の終業式で全校生徒に配る。
- ・昨年はクリアファイルを配布したため、それと同じ金額で補助金の予算を立てていたが、今年度はポケットティッシュに変更したため費用が安く済み、補助金が余ることとなった。

#### イ ぷらっと食堂

実施団体の地域居場所づくり推進委員会に参画する福原委員から、進捗状況について報告があった。主な内容は次のとおり。

- ・コロナ禍以降、地域の活動やつながりが停滞していると感じ、みんなで食事を楽しめる場を提供できればという思いで、今年度から取り組みを始めた。
- ・企画と開催にあたっては、まるごと支援員、地域包括センターなどに協力をいただいた。
- ・初めての開催であり、どれくらい人が集まるかもわからないため、事前申込み制にし、保育園、小学校、スーパーなどにチラシを貼らせてもらい周知した。
- ・料金は無料で、年齢制限などもなく、誰でも利用できる。
- ・調理のボランティアを募ったところ10名以上の参加があり、調理する人たちも楽しんでいった。

- ・ オセロなど遊び道具も用意し、食後はみんなで遊べるようにした。
- ・ 来年度以降は、寄附や協賛なども募り、続けていきたいと思っている。

## (2) 中央・新旭川まちづくり推進プログラムについて

事務局より、資料2のとおり説明した。

### 3 その他

#### 意見交換『地域の防犯』について

意見交換における主な内容は次のとおり。

- ・ 地域の民生委員が小学校の登下校の見守りをしている。数年前までは児童へ声かけもしていたが、最近は児童たちが犯罪に巻き込まれないように、知らない大人に声をかけられても相手にするなと教えられているため、声かけはやめて見守りだけにしている。
- ・ 町内会や市民委員会の防犯部はほとんど活動していない。
- ・ たしかに子供に声かけをするのはダメという風潮があるため、地域でのお祭りやイベントなど、みんなでいるときになるべく子供達に声をかけて、顔を覚えてもらうようにしている。そのため、顔なじみの児童が増えたが、たまたま近所の公園で何人かの顔なじみの児童と会ったときに一緒に遊んでいたら、通りかかった人に不審者だと思われて通報された。結局すぐに誤解は解けたが、隣近所など地域の人たちがみんな顔見知りになるのが理想だと思う。
- ・ 地域で活動する人がいなくなったのが課題だと感じている。昔はみんなで防犯や見守りをしていたが、いまは協力してくれる人がいない。今後さらに難しくなると思う。
- ・ 知新小学校の児童を見守る運動として、学区内の交通量の多い交差点に立ち、月に1回登校を見守っている。そのほかに警察と協力し、自転車でのパトロールもしている。
- ・ 火防部長をしているため、地域で火防や防災の研修を開催するが集まる人が少ない。お祭りならみんな集まるが、防災となると反応が悪くなる。消防や警察にも協力してもらい、楽しみながら学べるように工夫をしようと思っている。もともとは消火栓の場所や使い方も引き継がれていたはずだが、どこかで途絶えてしまって、いまは使える人がほとんどいない。
- ・ 市内には火防協会もあるが、協会に支払う費用の徴収が負担になるため加入しないという話を聞いたことがある。
- ・ 昔と比べると火事の件数は、かなり減ったと思う。数十年前はわりと頻繁に火災が発生していた印象がある。
- ・ 地域での防犯の会議が少なく、開催しても数人しか集まらないため、もう取組みをすること

ができない。

- ・コロナ前は警察が防犯講習などを開催してくれたが、コロナ禍以降は全くしてくれなくなった。
- ・防犯については交番の警察官を頼りにしたいが、不在のことが多く、異動も頻繁にあるため地域になじまない。
- ・小学校では敷地内の防犯カメラの数を増やしている。

## 4 閉会